

キリスト教保育連盟 神奈川県 2022年度主題
つながって 今、わたしを生きる

聖句「主がすべての災いを遠ざけて あなたを見守り あなたの魂を見守ってくださるように。
あなたの出で立つのも帰るのも 主が見守ってくださるように。」 —詩編121編7・8節—

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川県

2022年8月30日
第141号



「横浜英和幼稚園園長就任によせて」

横浜英和学院学院長・幼稚園園長
磯貝 暁成

神奈川県会の皆さま
初めまして、この度横浜英和幼稚園園長に就任いたしました磯貝暁成と申します。よろしくお願いいたします。

少し自己紹介させていただきます。三月に青山学院横浜英和小学校校長を任期満了で退職しましたが、四月より横浜英和幼稚園の園長を引き受けることとなりました。

振り返りますと、静岡英和学院の中学高等学校で三十余年、その後、関西学院初等部の創設に携わり、一期生を送り出し、そしてキリスト教学校教育同盟で事務局長を六年間務

め、最後の勤務先として横浜英和学院に招かれて学院長・園長に至りました。

横浜英和学院でのこの数年の間は、中高に続いて小学校の青山学院大学との系属校化、そしてコロナ禍と大きな変革の時期と重なりました。そこでは横浜英和学院としての教育の一貫性の問題が大きく浮上してきました。同時にリモート授業と対面授業のハイブリッドの問題も突き付けられました。そのような中で、スクールモットー「心を清め 人に仕えよ」に立ち返りながら、新しい横浜英和学院が生まれつつあることも事実です。

そのような時代に幼稚園から始まり小学校そして中学高等学校を有する学院の原点とも言える幼児教育の幼稚園園長に就任することは、言わば魂の育ちの時に立ち会うのですから、わたくし自身心新たな思いをしております。

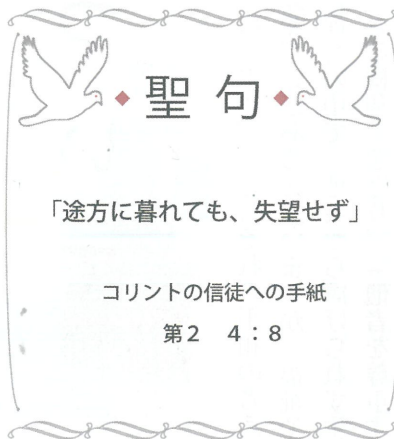
これまでの経験を振り返って幼児教育の基本は、自立と祈りにあるのではないかという思いに至りました。

自立は、挨拶から始まる社会性の育まれる幼児期が発点です。そして現実の自分と理想とする自分との出会いに悩みつつ過ごす青春期の中学高等学校時代を迎えた時に、目にする現実だけですべてを見切らない、その先を信じて生きる力が、育まれるのが幼児期でもあります。

教育の原点に立ち返った気持ちで、力足らずではありますが幼稚園園長を引き受けさせていただきました。身の引き締まる思いです。神様に心を向け、祈りに育まれることを基本とする幼児教育を実践していきたいと思っています。

一つの幼稚園、保育園、こども園が、キリスト教保育連盟につながることは、一つの大きなベクトルのもとに社会に問いかけることに外なりません。さらに日本カトリック幼保連盟との結びつきも大切にしたいと願っています。

特に神奈川県のお働きにご協力できることがあればと願っています。何なりとお申し出くだされば幸いです。



平和について

平和を創る

社会福祉法人たかみ友愛会
理事長 小川仁慈

世界中を駆け巡ったコロナウイルスのニュースから、いつしかウクライナに侵攻したロシアのニュースに変わってしまいました。戦争の犠牲になった人々、そして子どもたちの未来が失われたことについて、戦争のない平和な世界がいつになったら来るのかと思います。

ある紛争地域の子どもが、「私たちが子どもは、なぜ大人が戦争を起したのか聞きたいです。」と語っていました。子どもでも戦争がいけないことだとすっかりわかっているのです。しかし、平和について何かと考えると案外難しいテーマです。国と国の支配と搾取、人と人の力関係、過度な嫉や虐待など、社会の中では様々な問題がありますが、人は他人から虐げられ生きることが一番つらいことだと思えます。

戦争のない平和、暴力やいじめの

ない平和、人それぞれの平和の考えや想いがあると思いますが、福祉や保育の中で「他者から虐げられず生きる権利」を守り、「他者を尊重する多様性」を育てていくことが必要だと感じます。

保育園の中で子どもたちは、日々好奇心旺盛に目をキラキラさせながら虫を探し、けんかをしてもすぐに仲直りしてまた一緒に遊んでいます。家族や先生、地域の人たちから暖かく見守られ、自由に遊ぶ子ども姿が、まさに平和と感じるひとときだと思います。子どもは自然に平和を創っていますね。



平和のための働き

ドレーパー記念幼稚園
園長 佐竹和平

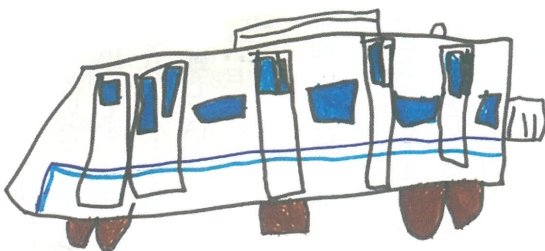
人生における最善の状態は幸福であるとされています。この最善の状態である幸福の条件や定義は人それぞれで、いま置かれている環境によって異なるでしょう。お金がある、社会的地位がある、仕事がある、容姿が端麗である、家がある、家族がいる。これらのモノがあれば幸福だと思える方もおられるでしょう。

しかし、これらのモノ以外で、幸福であるために絶対必要な条件が平和であることです。平和とは改めて辞書で確認すると「戦いや争いがなくおだやかな状態」とありました。いくら十分なモノに満たされていて平和でなければ幸福にはなれないのです。

この平和な状態に欠かせないのが愛ということになります。愛のある所に争いはないのです。愛とは相手のことを大切に思うこと。聖書には「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は決して滅びない」とあります。結婚式などで紹介されるのでお覚えの方もおられるでしょう。

マザーテレサの言葉に「愛のために働けば、それはそのまま平和のために働いたことになります。」と。愛を持つて、教職員がお互いに仕え合い、この愛を子ども達に言動をもつて伝えていく。幼児教育に携わる私たちの働き、それは平和のため、人々が幸福になるための貴重な働きなのだ。マザーの言葉に励まされるのです。



キリスト教保育の

幼きとして

認定こども園・伊勢原幼稚園

園長 田口美穂

「平和とは」と思いを巡らせているときに友人からの贈り物。「人生にとって必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ。」が届いた。三十年ぶりに目にしたなつかしい言葉に目を通しながら、幼き目に身体にしみついた言葉を一人ひとりが自覚的に生きたなら、「平和・シャローーム」がそこに「生み出される」のではないかと思われ、幼な児と共に歩む皆様にご紹介いたします。

何でも皆で分け合うこと。
人をぶたないこと。

使ったものは必ず元の所に戻すこと。
ちらかしたら自分で後片づけをする

人のものに出さないうこと。
誰かを傷つけたら、ごめんなさい、
と言うこと。

食事の前には手を洗うこと。
トイレに行ったらちゃんと水を流すこと。

おもてに出るときには車に気をつけ、
手をつないで、離ればなれになら

ないようにすること。

不思議だなど思う気持ちを大切に
すること。発泡スチロールのカッ
プにまいた小さな種さえもを忘れ
ないように。・・・

金魚も、ハムスターも、発泡スチ
ロールにまいた小さな種さえも、
いつかは死ぬ。人間も死から逃れ
ることはできない。く

「人生にとって必要な知恵はすべて
幼稚園の砂場で学んだ」より引用

これらのあとに著者のロバートフ
ルガムは次の言葉をつけ加えていま
す。

「人間として知っていないなくてはなら
ないことは全て、この中に何らかの
形で触れてある。人にして欲しいこ
とは自分もまた人に対してそのよう
にしなさいというマタイ伝の教え、
いわゆる『黄金律』の精神や、愛す
る心、衛生の基本まで述べてある。」

キリスト教保育の現場で幼な児と
共に生きる者として、希望の光を確
認した思いです。



幼子のように

平和を求める

百合丘めぐみ幼稚園

副園長 大谷真理子

子どもは身の周りのことをまっす
ぐな目で見つめます。小さいうちは
家の中のことや家族であり、幼稚園
では遊び、保育者、友達へと広がり、
段々と他のクラスの遊び、友達の家
族へ。年長になる頃にはメディア
に映し出される街や社会、世界にも
目と思いが向くようになります。

ある年の年長さんはインドでのサ
イクロンの話を聞きました。教会の
方々が支援しているインドの幼稚園
(生活に困難を抱える子ども達の生
活と教育を支える)が雨風で倒壊し、
子ども達の脆弱な生活基盤はさらに
大きなダメージを受けていました。

子ども達はその様子の写真やお話に
真剣な表情を見せ、心にとめていき
ました。そしてあがった声は「お友
達になつてあげたい」でした。被害
により住宅、食料、安全が脅かされ
る中、大人はどうしても(必要な物
は何か)と考えます。けれど子ども
達は(お友達だよ)(一緒にいるよ)
ということが大切だとはっきりと示
してくれました。

昨年度からのウクライナ侵攻の時

も、「礼拝でお祈りしたいことがある
？」という問いに「戦争が終わる
ように」と声があがりました。その
祈りの時には何とも言えない静けさ
がクラスに流れるのです。

子ども達は、「友達だね」と笑い
合う世界が平和な世界だということ
を知っています。そしてその平和が
どこから来るのかも知っているの
です。大人はこの世の価値観で争いや
貧困を誰かの責任にし、優劣や良し
悪しをつけてしまいがちです。けれ
ど本来の平和はそのようなことから
は生まれません。平和は争いがない
世界にとどまらず、その先の神とと
もにある喜びの世界です。

神様と共にあり、主に在って「友
達だね」と笑い合える喜びの世界を
祈り求めて歩みたいと、子ども達の
素朴な言葉から改めて思わされてい
ます。



役員会報告

書記 島義信

●第一回役員会

四月四日(月)、ウェブ形式で開催され、総会の事、新任歓迎会、広報誌の計画を話し合いました。

●第一回プロジェクト委員会

四月五日(火)
ウェブ形式にて顔合わせ・準備・進行の確認を行いました。

●総会

四月十二日(火)、ウェブ形式による総会となりました。

●新任歓迎会

四月二十日(水)、ウェブ形式で行いました。

●第二回役員会

五月十日(火)、ウェブ形式で行いました。

●第三回役員会

六月二十三日(木)、ウェブ形式で行いました。

●第一回講演会

六月十五日(水)、ウェブ形式で岡村直樹先生より「ミニストーリーとしてのキリスト教保育」のご講演をいただきました。

●新任保育者研修会

六月二十二日(水)
野毛山キリスト教会にて対面とウェブ形式の両方で桃原和子先生による「音楽遊び」を行いました。

●次回第四回役員会

七月二十八日(木)
ウェブ会議形式予定

●夏期講習会

八月二十三日(火)
ウェブ形式で全体礼拝ののち、河邊貴子先生に「遊びこむ子どもを育てよう」遊びの意義と保育者の役割」と題してご講演いただきました。

●中堅保育者研修会

九月二十一日(水)
篠田真紀子牧師より「子育てをしながら働く女性」についての学びの時間を持ちます。

●クリスマス礼拝

十一月三十日(水) 十五時半～
清水ヶ丘教会にて対面形式で予定しております。

●設置者・園長・主任研修会

十二月二十七日(火)
ウェブ形式で予定しております。
内容については決まり次第連絡させていただきます。

●保育環境研修会

一月十一日(水)
内容については決まり次第連絡させていただきます。

●今年度、クリスマス礼拝は三年ぶりに対面での礼拝を計画しております。

第七波の真っ只中ですが、十一月末には皆さんとお顔を合わせて、共に賛美できることを祈っております。ご予定いただき、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

編集後記

1学期最後の恒例行事「お泊り会」を目前に年長組に咳の風邪が増えあつと言う間に、クラスの半分以上がお休みに…そして学級閉鎖。そんな中、コロナの第7波が追い打ちをかけ、お泊り会は宿泊無しの内容へと変更となりました。子どもたちと何度も話し合いを重ね意見を出し合い「スペシャルナイト」として夕方から集まり、ナイトハイク・キャンプファイヤーを楽しみました。皆で手を繋ぎ炎を囲んで、2学期への更なる団結を誓い祈りました。神さまが共にいて導きを与えてくださったことに感謝いたします。



◇発行日 2022年8月30日

◇編集者 神奈川部会 広報担当
和泉保育園/平本麻美
霞ヶ丘幼稚園/大西亜津子

◇デザイン 永野絵理世

◇イラスト提供 霞ヶ丘幼稚園